

樺俊雄 （かほとよ） 社會學者、文學博士。明治二十七年二月一日東京生れ、
 昭和五十五年十一月二十二日歿（一九〇一—八〇）。第一高等學校を經て、
 昭和二年京都帝國大學文學部哲學科卒。歴史哲學、社會學專攻。と正
 大學・神戸大學・東京外國語大學・中央大學各教授歴任。二十五年の
 安保闘争で死亡した學生運動家樺美智子（かほみちこ）の父。

譯書に、ハルトマン著「ソリスとテレスとヘーゲル」(昭和五年九月
 二十日岩波書店「哲學論叢」)、ディルタイ著「歴史の構造」(昭
 和十五年五月五日富山房「富山房百科文庫」)、シェーラー著「指導
 者論」(昭和十九年六月二十日育英書院、育英出版株式會社)、オル
 テガ著「大衆の蜂起」(昭和二十八年二月二十五日創元社)、カール
 ・マンハイム著「ロイデオロギーとユートピア」(昭和二十八年九月一
 十五日創元社「創元新書」)、マンハイム他著「知識社会学」(訳編
 昭和二十二年六月十五日誠信書房)、ヒルティ著「眠れぬ夜のため
 ・上巻」(昭和二十四年九月二十日新潮社「新潮文庫」)、ランツナ
 ート著「社会学批判—社会学の基本問題とこころの自由と平等」(昭和
 二十八年十一月十六日岩波書店)等。

著書「現代思想概観」(合著、昭和十四年十月八日三笠書房「現代思
 想新書」)、
 「歴史における理念」(昭和十五年六月十日理想社出版

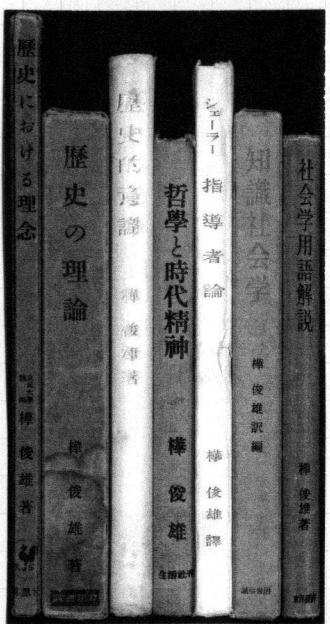
部)、
 「内省と建設」(昭和

十六年四月十日三笠書房)、

「歴史の理論」(六版・昭和

十六年六月二十日江書院)、

「新しき倫理のため」(昭



昭和十七年一月、二十五百育英書院）、『現代人生論』（合著・高山菊次
 編、昭和十七年十一月二十五百教材社）、『歴史的意識』（昭和十八年
 五月五百育英書院）、『新學と時代精神』（昭和十八年五月、二十百生
 活社『生活選書』）、『新時代の文化』（編、昭和二十一年五月、二十
 百愛育社）、『文化と傳統の問題』（昭和二十一年六月、二十百己書林
 『まんじ選書』）、『世界觀の社會學』（昭和二十二年六月、百夏百
 書店）、『回想の三木清』（合著・谷川徹三・東畑精一編、昭和二十二年一月十
 五、百文化書院）、『二十世紀思想の展望』（合著・小石川書房編集部
 編、昭和二十四年一月、二十五百、再刊、二十六年二月、百小石川書
 房）、『民主主義の理論』（堀眞琴共編、昭和二十四年二月、百愛育
 社）、『歴史社會學の構想』（昭和二十四年六月、二十百青也書店）、
 『最後の微笑』（昭和二十五年九月、百文藝春秋新社）、『社會學用
 語解説』（昭和四十一年六月、二十五百東洋經濟新報社）、『死と悲し
 みをこえて』（光子合著、昭和四十一年五月、百雄渾社）、『最後の
 微笑―樺美智子の生と死』（昭和四十五年四月、百文藝春秋）、『思
 い出の本』（合著、昭和五十九年十月、百出版ニューズ社）等。

